

< 評価事例 >

1 評価方法と評価の観点の関連について

流通ビジネス関係科目では、今まで「知識・理解」に重点を置き指導してきたが、興味や関心をもたせることで「関心・意欲・態度」を評価するとともに、できる限り生徒自らが考えたり、気付くことにより「思考・判断」、「技術・表現」が評価できるように工夫をしてきた。

評価規準にすべき事項を次の4点とした

行動観察：生徒の学習への取り組み状況を評価することから「関心・意欲・態度」の評価とした。評価は毎時間の記録を行うが(A)および(C)の評価だけを記録する。

ワークシート/ノート：毎時の授業で用意し「関心・意欲・態度」の評価ができるよう工夫する。また内容は、「思考・判断」、「技術・表現」、「知識・理解」の3観点についても評価できるように工夫する。特に「思考・判断」、「技術・表現」が評価できるように工夫する。

ペーパーテスト：学習した内容を確認することができるので、「知識・理解」、「技術・表現」の評価に反映させた。しかし考査の出題方法や内容について記憶力を問う問題を中心に出题するのではなく、「思考・判断」を評価できるように工夫する。

表1 単元ごとの観点別評価例

評価方法	評価時期	観点別評価			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技術・表現	知識・理解
行動観察	毎時				
ワークシート 又はノート	小単元				
ペーパーテスト	定期				

2 評定への総括事例

事例1～3では、単元別に四観点別評価をABCの3段階で行い、それらを点数に換算して各評価の満点総合計で割ることで割合を求め、その割合を点数とする。ペーパーテストは、上記「1 評価規準の策定について」で示した表1のように3観点(「思考・判断」、「技術・表現」、「知識・理解」)に素点(事例では60点とした)をそのまま当てた。評定への総括は、各単元の観点別評価の合計(4観点の評価点計の合計)と定期考査の点数の合計が、評価の満点計と定期考査の満点の合計に占める割合をもとに評定に総括した。( (1) 事例1参照)

事例4～5は、事例1～2をもとに単元ごとの重みとして単元に時数を付加した評価から評定へ総括した。

表2 評価を評定に総括する割合

観点別学習状況の評価と定期考査を評定に総括する評定基準を作成				評定に総括する基準
観点別学習状況の評価		評 定		
十分満足できる	A	特に高い程度のもの	5	90%
		十分満足できる	4	
おおむね満足できる	B	おおむね満足できる	3	70%
努力を要する	C	努力を要する	2	40%
		一層努力を要する	1	
				20%

(1) 事例1 (ABCの点数換算をA:3点、B:2点、C:1点、定期考査を60点とした場合)

観点	単元					評価点計	評価の満点計 (4*15)	定期考査点数 (100点満点)	総括 (評定)
	単元1	単元2	単元3	単元4	単元5				
関心・意欲・態度	A(3)	B(2)	B(2)	B(2)	A(3)	12*	60	-	67.5%** (3)
思考・判断	B(2)	A(3)	A(3)	B(2)	A(3)	13			
技術・表現	B(2)	A(3)	B(2)	B(2)	A(3)	12			
知識・理解	B(2)	A(3)	B(2)	B(2)	B(2)	11			

\* 評価点計 すべての単元の各観点別評価の合計

$$3点 + 2点 + 2点 + 2点 + 3点 = 12$$

\*\* 総括の求め方 (各観点の評価点計の合計 + 定期考査点数) ÷ (評価の満点計 + 定期考査の満点) × 100

$$(12点 + 13点 + 12点 + 11点 + 60点) ÷ (60点 + 100点) × 100 = 67.5\% \quad \text{評定「3」}$$

(2) 事例2 (ABCの点数換算をA:5点、B:3点、C:1点、定期考査を60点とした場合)

観点	単元					評価点計	評価の満点計 (4*25)	定期考査点数 (100点満点)	総括 (評定)
	単元1	単元2	単元3	単元4	単元5				
関心・意欲・態度	A(5)	B(3)	B(3)	B(3)	A(5)	19*	100	-	68%** (3)
思考・判断	B(3)	A(5)	A(5)	B(3)	A(5)	21			
技術・表現	B(3)	A(5)	B(3)	B(3)	A(5)	19			
知識・理解	B(3)	A(5)	B(3)	B(3)	B(3)	17			

\* 評価点計 事例1の計算方法と同じ

$$5点 + 3点 + 3点 + 3点 + 5点 = 19$$

\*\* 総括の求め方 (各観点の評価点計の合計 + 定期考査点数) ÷ (評価の満点計 + 定期考査の満点) × 100

$$(19点 + 21点 + 19点 + 17点 + 60点) ÷ (100点 + 100点) × 100 = 68\% \quad \text{評定「3」}$$

(3) 事例3 (ABCの点数換算をA:5点、B:3点、C:1点、定期考査を83点とした場合)

観点	単元					評価点計	評価の満点計 (4*25)	定期考査点数 (100点満点)	平均 (評定)
	単元1	単元2	単元3	単元4	単元5				
関心・意欲・態度	A(5)	B(3)	B(3)	B(3)	A(5)	19*	100	-	79.5%** (4)
思考・判断	B(3)	A(5)	A(5)	B(3)	A(5)	21			
技術・表現	B(3)	A(5)	B(3)	B(3)	A(5)	19			
知識・理解	B(3)	A(5)	B(3)	B(3)	B(3)	17			

\* 評価点計 事例1と同じ

\*\* 総括の求め方 (各観点の評価点計の合計 + 定期考査点数) ÷ (評価の満点計 + 定期考査の満点) × 100

$$(19点 + 21点 + 19点 + 17点 + 83点) ÷ (100点 + 100点) × 100 = 79.5\% \quad \text{評定「4」}$$

(4) 事例4 (ABCの点数換算をA:3点、B:2点、C:1点、定期考査を60点、単元ごとの評価に重み(単元数)つけた場合)

観点	単元	単元1	単元2	単元3	単元4	単元5	評価点 ×時数 の計	評価の 満点計 (4*42)	定期考査点数 (100点満 点)	総括 (評定)
	重み(時数)	2時	4時	4時	2時	2時				
関心・意欲・態度		A(3)	B(2)	B(2)	B(2)	A(3)	32*	168	-	52.2%** (3)
思考・判断		B(2)	A(3)	A(3)	B(2)	A(3)	38		60	
技術・表現		B(2)	A(3)	B(2)	B(2)	A(3)	34			
知識・理解		B(2)	A(3)	B(2)	B(2)	B(2)	32			

\* 評価点計 各観点別評価×単元1の時数+観点別評価×単元2の時数+……

$$3点 \times 2時 + 2点 \times 4時 + 2点 \times 4時 + 2点 \times 2時 + 3点 \times 2時 = 32$$

\*\* 総括の求め方 (評価点×時数 の計の合計+定期考査点数)÷(評価の満点計+定期考査の満点)×100

$$(32点 + 38点 + 34点 + 32点 + 60点) \div (168点 + 100点) \times 100 = 52.2\% \quad \text{評定「3」}$$

### 3 まとめ

- (1) ABCの点数に換算する場合は、点数の幅が大きくなるほど評価の差が大きくなる。また重みを付加すればより大きくなる。
- (2) 点数の幅や重みを付加する方法には、考察した事例以外にも様々な方法が考えられるが、学校の実態や教科・科目の特性、単位数等を踏まえ、それを行うことによって、評価の信頼性が高まるか、生徒の学習指導に役立つものになるかという視点から行われるべきものであり、評価の客観性や信頼性を高めていく上でも、重み付け等について、合理的な説明ができることが求められる。